

水稻新品種「ヒノヒカリ」について

八木忠之¹⁾ 西山 壽²⁾ 小八重雅裕・轟 篤・日高秀光³⁾ 黒木雄幸⁴⁾ 吉田浩一・愛甲一郎²⁾ 本部裕朗
(宮崎県総合農業試験場¹⁾ 九州農業試験場²⁾ 宮崎県農政水産部³⁾ 宮崎県宮崎農業改良普及所⁴⁾ 宮崎県えびの農業改良普及所)

Tadashi YAGI, Hisashi NISHIYAMA, Masahiro KOBAE, Atsushi TODOROKI,
Hidemitsu HIDAKA, Yukou KUROGI, Kouichi YOSHIDA, Ichirou AIKOU and
Hiroaki HONBU : A New Rice Cultivar "Hinohikari"

水稻新品種「ヒノヒカリ」は、1989年から福岡、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島との5県において奨励品種に採用され普及に移された。また、1990年以降には、西日本を中心に広く普及が見込まれている。ここに本品種の育成経過並びに特性概要を報告し普及の参考に供したい。本品種の育成に関し、種々ご高配をいただいた関係県農業試験研究機関各位に深く謝意を表する。

1. 来歴及び育成経過

本品種は1979年宮崎県総合農業試験場において、「コシヒカリ」の食味導入を目標に「黄金晴」を母、「コシヒカリ」を父として交配を行い、世代促進、個体選抜(その際ピーカー炊飯米光沢検定法によりコシヒカリ並みの光沢の個体を選抜)、系統選抜を経て、1986年F₂より「南海102号」の系統名を付し、関係県に配布して地方適応性を検討してきたもので、1989年6月「水稻農林299号」と登録、「ヒノヒカリ」と命名された。

2. 特性の概要

1) 形態的特性 「コガネマサリ」より稈長はやや短く、穂長はやや短く、穂数はやや多い、やや長稈偏穂重型である。止葉は中程度に立ち、短芒が稀にあり、ふ先色は黄白で粒着密度はやや密、脱粒性は難である。玄米の形状は中で、粒大は「コガネマサリ」と同じやや小粒であり、腹白・心白の発生は少なく、色沢はやや濃、光沢はやや大で、外観品質は「コガネマサリ」並みの良質である。搗精歩留は普通で、食味は「コシヒカリ」並みの極良食味である。

2) 生態的特性 出穂期、成熟期とも「コガネマサリ」より1日遅い暖地では中生の中に属する粳種である。耐倒伏性は「コガネマサリ」よりやや強いやや弱である。収量性は「コガネマサリ」並みにやや多収である。いもち病抵抗性遺伝子型は Pi-a, Pi-i と推定され、葉いもち、穂いもちの抵抗性は「黄金晴」並のやや弱である。白葉枯病抵抗性は「コガネマサリ」よりやや弱い、やや弱である。縞葉枯病には罹病性である。

3. 奨励品種採用理由

九州各県における主要品種は、そのほとんどが政府米としての流通である。一部「コシヒカリ」、「クジユウ」等が自主流通米として出回っているもののその比率は低く、これからの消費の変化に対応していくためには、さらに、その比率拡大が必要とされる。

「ヒノヒカリ」は、耐病性、耐倒伏性において他の品種より劣る面もみられるものの安定した作柄や品質を持ち、また、「コシヒカリ」並みの極良食味を兼ねそなえ

ていることより、自主流通ベースにのる普通期作品種として期待され、採用5県において35,500haの作付面積が見込まれる。

4. 栽培上の注意

- 1) いもち病にはやや弱いので、常発地での栽培はさけるとともに、その他の地域にあっても、いもち病に対する適期防除に留意する。
- 2) 耐倒伏性がやや弱いので、基肥を減らし、穂肥の時期に注意する等肥培管理に留意する。
- 3) 白葉枯病にやや弱いので、適期防除に留意する。
- 4) 良質米生産を図るため、適期収穫を励行する。

第1表 ヒノヒカリの特性概要

品種名		品種名	
		ヒノヒカリ	コガネマサリ
形質	早 晩 生	中生の中	中生の中
	草 型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月日)		8.29	8.28
成熟期(月日)		10.9	10.7
稈 長 (cm)		80	83
穂 長 (cm)		19.5	21.2
穂 数 (本/m ²)		364	349
芒の多少・長短		稀・短	やや少・やや短
ふ 先 色		黄白	黄白
	脱 粒 性	難	難
耐 倒 伏 性		やや弱	やや弱
耐 病 性	葉いもち	やや弱	中
	穂いもち	やや弱	やや強
	白葉枯病	やや弱	中
	縞葉枯病	罹病性	罹病性
玄米重 (kg/a)		49.7	49.8
同上標準比率(%)		100	100
玄米千粒重 (g)		21.4	21.2
玄米品質		上下(4.5)	上下(4.2)
食 味		上中	上下

注) 育成地における1984~'88年の標準栽培